

市場外流通野菜の残留農薬検査結果（平成 26～30 年度）

保健科学課 微量分析担当

1 はじめに

直売所は、「新鮮な地場の特産品を気軽に購入できる」「生産者の顔が見える」等のイメージがあり、近年、大きく注目されている。また、農林水産省「卸売市場をめぐる情勢について 食料産業」（<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sijyo/info/attach/pdf/index-101.pdf>）に掲載のとおり直売所やインターネットによる販売、食品製造業や外食産業における産地からの直接仕入れ等、流通の多様化により卸売市場を経由しない野菜（以下、「市場外流通野菜」とする。）の割合が増加している。

福岡市では卸売市場を経由して流通する野菜（以下、「市場流通野菜」とする。）については、福岡市食品衛生検査所で収去し、残留農薬の検査を行っている。一方、市場外流通野菜は卸売市場を経由しないことから、残留農薬等の不安に関する市民のニーズに応えるために、年一回 10 数検体各保健所の食品衛生監視員が直売所等で収去し、福岡市保健環境研究所で残留農薬検査を実施している。

市場外流通野菜の収去検査をより効果的なものとするため、過去 5 年間の当所における市場外流通野菜残留農薬検査結果及び検出状況をまとめたので報告する。

2 方法

収去検査の中で毎年 7 月頃実施される市場外流通野菜の残留農薬検査を対象として、平成 26 年度から平成 30 年度の結果を葉菜類、茎菜類、果菜類及び根菜類に分類し、残留農薬の検出率を集計した。さらに、検出した農薬を確認するため、作物ごとの検出農薬を集計した。福岡市内を流通する国産野菜の残留農薬検出作物の傾向

を把握するため、食品衛生検査所による市場流通野菜の収去検査結果との比較も併せて行った。

3 残留農薬検査結果

市場外流通野菜の残留農薬検査結果を表 1 に示す。

全 60 検体中、葉菜類は 1 検体中 1 検体から、果菜類は 32 検体中 11 検体から農薬が検出されたが、全て基準値内であった。一方、茎菜類及び根菜類 27 検体については、残留農薬は検出されなかった。

次に、市場外流通野菜の検出農薬を表 2 に示す。葉菜類及び果菜類で検出された農薬は殺虫剤及び殺菌剤であり、除草剤等の農薬は検出されなかった。農薬の種類で見ると、殺虫剤ジノテフランが 5 検体、殺菌剤プロシミドンが 4 検体検出され、殺菌剤アゾキシストロビン及びボスカリドが各 2 検体、殺虫剤ルフェヌロンが 1 検体検出された。

表 1 市場外流通野菜の残留農薬検査結果
(平成 26～30 年度)

品目	分類	検体数	検出検体数	検出率
キャベツ	葉菜類	1	1	100%
トマト	果菜類	6	4	67%
なす	果菜類	11	4	36%
ピーマン	果菜類	3	1	33%
きゅうり	果菜類	10	2	20%
玉ねぎ	茎菜類	16	0	0%
じゃがいも	根菜類	9	0	0%
かぼちゃ	果菜類	2	0	0%
にんじん	根菜類	1	0	0%
さつまいも	根菜類	1	0	0%
合計		60	12	20%

表 2 市場外流通野菜の農薬検出状況（平成 26～30 年度）

品目	検体数	殺菌剤		殺虫剤	
		農薬名	検出項目数	農薬名	検出項目数
キャベツ	1	-	-	ジノテフラン	1
きゅうり	10	ボスカリド	1	ジノテフラン	1
トマト	6	プロシミドン	3	ジノテフラン	1
		ボスカリド	1		
なす	11	アゾキシストロビン	1	ジノテフラン	2
		プロシミドン	1		
ピーマン	3	アゾキシストロビン	1	ルフェヌロン	1

4 市場流通野菜との比較

福岡市内を流通する国産野菜の残留農薬検出作物の傾向を把握するため、食品衛生検査所による平成26年度から平成30年度までの市場流通野菜の収去検査結^{1~5)}との比較を行った。食品衛生検査所における国産野菜の収去検体数は718検体であった。葉菜類230検体、果菜類245検体、茎菜類114検体、根菜類129検体のうち、検体数が10以上であった品目を対象に比較した(表3)。その結果、根菜類及び茎菜類と比較して葉菜類及び果菜類の検出率が高い傾向があることが分かった。この傾向は市場外流通野菜と同様であった。

表3 市場流通野菜(国産)の残留農薬検査結果※
(平成26~30年度)

品目	分類	検体数	検出検体数	検出率
セロリ	葉菜類	10	10	100%
こまつな	葉菜類	18	17	94%
チンゲンサイ	葉菜類	14	13	93%
みずな	葉菜類	15	12	80%
青ねぎ	葉菜類	14	11	79%
ピーマン	果菜類	22	17	77%
きゅうり	果菜類	30	23	77%
トマト	果菜類	39	28	72%
いちご	果菜類	20	13	65%
未成熟いんげん	果菜類	11	7	64%
なす	果菜類	30	19	63%
はくさい	葉菜類	21	13	62%
にら	葉菜類	17	10	59%
レタス	葉菜類	28	16	57%
ほうれんそう	葉菜類	30	17	57%
白ねぎ	葉菜類	13	6	46%
しゅんぎく	葉菜類	14	6	43%
すいか	果菜類	12	3	25%
メロン	果菜類	17	4	24%
キャベツ	葉菜類	26	4	15%
だいこん	根菜類	27	4	15%
さといも	根菜類	18	2	11%
にんじん	根菜類	21	2	10%
ブロッコリー	葉菜類	19	1	5%
ばれいしょ	根菜類	21	1	5%
たまねぎ	茎菜類	21	0	0%
かんしょ	根菜類	17	0	0%
ごぼう	根菜類	15	0	0%
ながいも	根菜類	11	0	0%
かぼちゃ	果菜類	10	0	0%
合計		581	259	45%

※ 検体数10以上の品目を集計。

5 まとめ

本市における過去5年間の市場外流通野菜の農薬検出状況をまとめた。その結果、60検体中12検体から農薬が検出され、すべて基準値内であった。また検出率について、葉菜類及び果菜類が茎菜類及び根菜類と比較し、高い傾向があった。なお、市場外流通野菜の検出農薬は殺虫剤及び殺菌剤であった。

全国的に市場外流通野菜の出荷量が年々増加する中、市場外流通野菜の残留農薬検査は重要である。食の安全・安心のためには、残留農薬が検出されやすい作物を検査し、基準値を超過した場合は迅速に原因究明を行い、再発防止を図ることが重要である。収去検査データを踏まえた上で目的に応じた収去品目を選定することが市民の食の安全・安心につながると考えられる。

文献

- 1)福岡市食品衛生検査所：食品衛生検査所業務概要(平成30年度)，2019
- 2)福岡市食品衛生検査所：食品衛生検査所業務概要(平成29年度)，2018
- 3)福岡市食品衛生検査所：食品衛生検査所業務概要(平成28年度)，2017
- 4)福岡市食品衛生検査所：食品衛生検査所業務概要(平成27年度)，2016
- 5)福岡市食品衛生検査所：食品衛生検査所業務概要(平成26年度)，2015